全国都市問題会議報告

健康づくりとまちづくり ~市民の一生に寄り添う都市政策~

(公財)後藤・安田記念東京都市研究所 研究員 吐合大祐



での健康づくり政策はどういう効果をもたら 伸に必要となる「健康づくり政策」に対する注 習慣病等による健康リスク低減や健康寿命 目の高まりという社会的背景がある。「これま 高負担・高福祉が徐々に固定化する中、 長ならびに市区議会議員など約1700人が づくりにどう貢献できるのか」について、 回の会議では「都市のあり方が一人一人の健康 市民の一生に寄り添う都市政策~」を掲げ、今 開催テーマとして「健康づくりとまちづくり 催都市は兵庫県姫路市(於:アクリエひめじ)、 わたって、第8回全国都市問題会議 全国各地より参集し、 (公財) 全国市長会館) が開催された。 (公財)後藤・安田記念東京都市研究所 今回の課題選定には、 去る令和6年10月17日から18日の2日 (公財)日本都市センター、 議論が繰り広げられた。 超少子高齢化の 生活

開会式



開会あいさつを行う松井会長

催された全国都市問題会議の議論の中身につ 時代に即した「住民一人一人の健康づくり政 とっての課題は何か」を自治体同士で広く共有 貢献できるのか」「今後の健康づくり政策に したのか」「自治体は住民の健康づくりにどう への理解も深まると期待されたからであ 皆で深く議論することで、 今号の『市政』では、2日間にわたって開 可能な限り共有したい。 人生100年

市

ぞれあいさつがあった。 兵庫県副知事 泰・姫路市長から、 究者による一般報告が主であった。 あいさつがあり、 市長会会長の松井一實・広島市長より開会 日目は、主に基調講演と参加自治体・ (知事職務代理執行者)よりそれ また来賓として服部洋平・ 続いて開催都市の清元秀 まず、 全 研

学院大学教授)より「生命を捉えなおす~動的 開会式の後は、 生物学者の福岡伸 氏 青山

> 平衡の視点から~」というテーマの基調講演が 失ってしまう。その上で、まちづくりをパー とまちの構造の共通点を見いだした上で、 行われた。 福岡教授は訴えるのである。 まち全体が持つ機能性を損なわせてしまうと く、システム全体が持つ機能性を念頭に置い ツに分けつつ細部ばかりに拘泥するのではな まっては、まち全体が持つダイナミズムを見 察と同様に「要素還元主義」に偏重し過ぎてし た経緯を織り交ぜながら、生き物の体の構造 なわち、まちも「生き物」として捉えてみた場 てアイデアを生み出すことが重要と指摘。 つの見解を提示した。まちづくりも生物観 ·問題/まちづくりを論じる視点について、 要素還元主義的な見方に陥ってしまえば、 福岡教授は、自身が生物学者になっ す

> > き続けるために、

あえて細胞を壊し続ける」と

いう身体の特性こそが、まちづくりの営為に

者であるルドルフ・シェーンハイマーが示した の説明によると、 衡の生命論」による見方を提案する。福岡教授 その上で、まちづくりの視点として 動的平衡とは、ユダヤ人科学 「動的平

> 要な見方ではないかと訴えた。すなわち、 ンスを保つ営為」と定義した上で、このアイデ 捨て続け、新しく構成物を作り直すことでバラ 壊し続けることで、 示す概念である。 生命観を踏まえて提唱された、生命体の特性 トロピー /価値観こそ都市まちづくりにとっても必 (現象の度合いを示す指標)を絶えず 動的平衡を「自らを積極的 本来増え続けるはずのエン

相通じるものがあるのではないかと話した。 身を絶えず壊しながらより頑丈な身体をつく 施策を漫然と展開するのではなく、 サービスや都市インフラなどさまざまな行 都市の発展によって積み上げられてきた行 り上げている営為こそ、 補性」という特性について挙げ、この細胞が自 ズルのようにみっちりと隣り合って支える「相 とって最も欠かせないものだと指摘した。 また、身体の細胞はそれぞれがジグソーパ 都市まちづくりにも

福岡・青山学院大学教授(生物学者)

基調講演



清元・姫路市長



耳を傾けていた。

耳を傾けていた。

東を傾けていた。

本を傾けていた。

本を傾けていた。

本を傾けていた。

本を傾けていた。

本を傾けていた。

本とののではなく、都市まちづくまを一下し続ける姿勢」を持ち続けることの重要が一トし続ける姿勢」を持ち続けることの重要が一トし続ける姿勢」を持ち続けることの重要が一トし続ける姿勢」を持ち続けることの重要が一下し続ける姿勢」を持ち続けることの重要が一下し続ける。現状に満足して思い主張と説明に対し、多くの参加者も熱心にい主張と説明に対し、多くの参加者も熱心にい主張と説明に対し、多くの参加者も熱心にいき傾向に破壊し、アップデートを図ってのを積極的に破壊し、アップデートを図って

主報告

基調講演の後は、開催都市である姫路市の

説明があった。 り政策の取り組み実績と今後の展望について清元市長から、姫路市が進めてきた健康づく

報告によると、姫路市の健康づくり政策は

挙げ、 ながら展開している。四つ目は「未来 制による健康づくり促進を取り組みと 救急業務の迅速化・円滑化やポイント 外出し、出会い・交流できるウォーカ 市がバックアップすることで市民の行 善・各種疾病の早期発見/重症化予防につい デジタル技術を活用することで、人々 して例示する。マイナンバーカードや には「ICTを活用した健康づくり」を くりが期待できると説明した。三つ目 こもり予防といった心身両面の健康づ 生活習慣病の発症リスクの低減やひき ブルな環境づくりを推進することで た。市長は、市井の人々がまちなかに イルミネーションの取り組みを例示し 進道路「ほこみち」の設置や大手前通り は「ウォーカブルなまちづくり」とし 動変容を期待するものである。二つ目 主に、軽度認知障害等の予防や生活習慣の改 以下四つの柱から進められている。一つ目は の健康をサポートすることができると て、公共空間の利活用/歩行者利便増 て触れ、 市民による主体的な介護予防を促進」である。 スマートシティ事業と掛け合わせ マイナンバーカードを活用した 個別相談やつながりの創出の機会を

> 体制の構築が必要であると語った。 を担う子どもたちの健やかな成長を支援」とし をの育児・教育面も含めた健康づくり支援で もの育児・教育面も含めた健康づくり支援で ある。これらの取り組みを踏まえ、健康づく りには市民が主体的に活動するための環境づ くりが不可欠であり、それを可能とする支援 くりが不可欠であり、それを可能とする支援」とし

姫路市の取り組みは、まち全体を健康づく



をもたらすに違いない。 迎えるこれからの日本にとって、 姫路市の理念と施策は、 もある。「健康がまちの活力を生み出す」とする ブル事業は姫路市の取り組みが先進モデルで トを享受できる点が興味深い。特にウォーカ りの場として創出し、住民全てが等しくメリッ 人生100年時代を 大きな示唆

である。

井崎市長は「都市そのものを健康にす

般報告の2人目は、井崎義治・

流山

市

般報告

般報告が行われた。 日目午後は、 市長と研究者の3名による

える行動変容プログラムに携わった知見を基 交通行動履歴から健康のために歩行促進を考 える健康づくりの課題を論じた。谷口教授は、 まちづくり」をテーマとして、都市問題から見 氏 (筑波大学教授) は、「生き物から学ぶ健康な 康状態」を読み解くことができると話す。 に、人々の行動パターンからはそのまちの 般報告のトップバッターを務めた谷口守

その上で、健康づくりとまちづくりの関係性

管ネットワークに見なすことで各自治体が抱 可能であると説いた。都市も生き物と同様に よりわかりやすくまちづくりを論じることが をより深く理解するためには、「生物模倣(バイ 症」であるとわかりやすく例示する。この生物 をもってまちづくりのヒントを得ることがで 康状態にうまく例えながら、そのような見方 もすれば「生活習慣病」にも罹患するといった オミメティクス)」の視点を取り入れることで、 い状況であれば「肥満」状態、まちなかに空き 「成長」するし「老化」もする、そして「けが_ 課題が浮かび上がり、自治体同士の連携が .規模とまちの行政サービス量がマッチしな 空き家が多ければそのまちは「骨粗しょう 自治体が抱える政策課題を身体の健 例えば、交通ネットワークを血 都市問題の本質改善が図ら 自治体

地、 模倣という見方を取り入れることで、 える交通網の課題を描くことができるし、 きると話す。 れやすくなると主張した。 スムーズになり、 0) ように、

> ちづくり」の五つに分け、さまざまな分野で健 政策の実例を踏まえつつ、健康まちづくり政 モデルの事例を紹介した。 康づくりのための政策を打ち出してきた流 づくり」「安全で健やかな食生活を楽しめるま めるまちづくり」「心と体を健やかに育むまち づくり」「地域の豊かな文化とスポーツを楽し づくり」「緑の回復・保全と安心・安全のまち 業を「子育て環境の充実・長寿社会対応のまち 19年に健康都市宣言を行い、健康に関わる事 策に必要な視点を訴えた。流山市では、 るまちづくり」をテーマに掲げ、 から進めてきた流山市での健康まちづくり 自身が市長就 平成

明する。とりわけ前者の「グリーンチェーン戦 略と認定制度」については、つくばエクスプレ 送迎保育ステーション」について取り上げ、 して「グリーンチェーン戦略と認定制度」「駅 その上で、この健康づくり政策の代表例 説 前





井崎・流山市長



畑・兵庫県立大学副学長

ことを、 域住民にプラスのフィードバックをもたらす 旨を丁寧に語りつつ、緑化政策を「都市そのも ランド現象にも対応できるとする本制度の趣 やすことで住民のストレス軽減やヒートアイ を含め「一石四鳥」となる施策である。 のを健康にする政策」として表現し、それが地 ス開業による緑地減少への対応策として、 所有者、 具体例をもって示した。 開発事業者、 購入者そして自治体 緑を増 土

ジィ値を基にした数値化が有用と畑副学長は 治体の健康状態を一見して理解するにはファ ながらの説明に、会場も時折学会報告と見間 を用いて地域住民の健康状態を評価しようと 化する試みについての報告である。より精緻 診データを基にした、住民に健康状態を可視 パートは、 姫路市の健診データ解析と歌唱による誤嚥予 違うような雰囲気を醸し出していたが、各自 試みた報告である。 に健康状態を可視化するために「ファジィ値_ いて報告を行った。前者の健診データ解析の 大学教授の畑豊副学長である。 の効果について、いずれも定量的手法を用 /AIの健康分野への適用例」をテーマに、 般報告の3人目は、 姫路市の特定健診・後期高齢者健 複雑なファジイ値を用い 地元にある兵庫県立 畑副学長は「I

が嚥下障害といわれる)の症例を取り上げ、 障害/誤嚥」(日本では1000万人の高齢者 の適用例として、死因でも上位に挙がる「嚥下そして後半パートでは、AIの健康分野へ 嚥

> 唱者/非歌唱者を対象とする嚥下機能 要であると強く訴え、 必要となるエビデンスを得るために必 機能が維持されやすい)と説く。また、 する者は、そうでない者に比べ、嚥下 比較のための実証実験を紹介した。 下機能改善のためのAI活用研究の紹 くった。 指標の算出こそが、 女性の不妊治療に対するAI/ICT 意な影響を及ぼすこと(歌唱経験を有 上で、歌唱経験が嚥下機能の発達に有 験の数値で用いる「嚥下回数の計測」に 介を行った。嚥下機能の維持にプラス 介したが、AI/ICTを用いた健康 の応用可能性についても実例を基に紹 AI技術が活用できることを説明した に働く動きとして「歌唱」に注目し、 健康づくり政策に 報告を締めく 実 歌

端の学術的な動向を追跡していくためのきっ かけとしては大変有意義な機会であった。 治体の先進的な取り組みあるいは最先 く異なる視点からの報告が行われ、 今回の一般報告では、三者三様、 自 全

ネルディスカッション

太郎氏 れから市民の健康に最前線で向き合う2名が ネルディスカッションでは、司会者に宮本 ネルディスカッションからスタートした。 2日目は、「健康づくりによるまちづくり」 (中央大学教授)を迎え、 市長2名、 そ

パ パ



登壇した。 壇者からはこの問題意識を踏まえた課題説明 ケア連携」という四つの論点が提示され、各登 チと『場』づくり」「デジタルも活用した医療・ 通してのケア」「ポピュレーション・アプロー 取り組み紹介がなされた。 層への有効アプローチ」「ライフサイクルを 冒頭には、 司会の宮本氏から 「『未

童精神科医)からは「心理社会アプローチから まず、パネリストの三木崇弘氏 (高岡病院児

パネルディスカッション

コーディネーター



宮本・中央大学法学部教授

保健、 栄養パトネット理事長) をアプローチ指定すべきであると説いた。 の統合を通じて、 栄養パトロール」事業について報告した。 医療分野の部門間連携や政策実施部門 社会心理面での健康づくり は、

ネガティブな自己表現の苦手さに由来する現

応酬、また社会を取り囲む過度な完璧主義や

代社会の息苦しさ、複雑な人間関係(親子関係

代の子どもたちが心理的に不健康であるとい

自身の診察経験を踏まえながら、

現

ちづくりには「子ども支援の一元化」が重要で

木氏は、子どもも大人も安心して暮らせるま

あると指摘し、子どもに関係する教育、

福祉、

その背景には、

SNS上の過激な言葉の

木氏は、

みた子どもの健康」について報告があった。

村氏が挙げた栄養パトロール事業は、 次に登壇した奥村圭子氏(NPO法人・日本 自身が取り組んだ 厚生労 奥

発育には欠かせないと主張する。その上で三

る社会の度量」を広げることが子どもの健全な

友人関係

があるとし、

「人間の弱さを包摂す

種連携」 働省保険局「高齢者の保健事業と介護予防の べられない原因の地域問題の早期発見と多職 や支援方法の流れについて説明した上で、 診を受けられない高齢者等に対する実態調 事業として採用されている。 ことを目的に一部自治体で展開されるモデル することで医療依存度を高めないようにする_ 体的な実施」 い問題解決のための既存の社会資源の再開発 「個人の栄養問題の介入」 0) 一環として、 「健康寿命を延伸 地域の医療や検 「食べられ 「食 査

パネリスト



三木・高岡病院児童精神科医



奥村・NPO法人日本栄養パトネット理事長



今井・茅野市長



南出・泉大津市長

そしてこの でどう展開されたのかを愛知県日進市と山 して登壇した今井敦・茅野市長は、「デジタル (山梨市の取り組み事例を基に説明があった。 の意義について報告した。 園健康特区_ 3点が事業実施のポイントであると論じた。 実際の自治体政策のプレゼンテーションと 三つ でもある茅野市の健康づくり政 0) ポ イント が 茅野 事業実施レ 市では若者 ベ ル



姫路市と播磨圏域7市(相生市、加古川市、赤穂市、高砂市、加西市、宍栗市、たつの市)のキャラクターが参加者 をお出迎え

した 通の 病院 行う が目指す将来像を参加者に語りかけた。 るための予約制 組み事例として、 会インフラの健康」に基 づくさまざまな施策が展開されている。 組み実績を列挙した上で、 流入や定着を目指す 医 茅野」の実現に向 通い 整備などがある。 健康づくり政策の必要性を訴え、 の診療時間外でもチャッ 小 や買い物に行く人ら '児オンライン相談サービス」、 A 夜間・休日 け 乗り合い 今井市 づ ーデ 暮らしやすい未来都 いた「人の健康 新たな時 トで相談対応を 長はこれ オンデマンド交 の移動を支援 の小児かかり タの 日 茅 代に らの 取り 野 中 即 取 す \dot{o} 市

け

市 0)

して は、 が は 取 出 環境づくりを進めてい 態の見える化」「学びの場の充実」「食育の推進 組んできた上記取り 報告があっ 組みとこれから目指すまちづくりにつ 多様な選択肢の提供」 2都市」 ŋ 「市長は、 :健康づくり推進条例の制定を挙げ、 重要とし、 ステージ 泉大津市が目指してきた 組みも例に出 いく機運の醸成を実現するための仕組 ル 後に登壇した南出賢 スリテラシー に関連した官民連携 感染から発症期 新型コ に合わせた選択肢 さまざまな医療法を備える相 南出市長は、 口 ナウ 向 組みの一 コ くと説明した。 上と健康づくり 0) イル 口 4点に注目 一・泉大津市 ナウイルス対策に 回 環として泉大津 「未病予防対策先 を用意すること 泉大津市 ス感染症 市民共創の取り [復期] など個人 「健康状 を推進 対策 また南 が取り いての 長 市民 か み 5 0)



を具 窓 む人 、体的に示した。 0) 々 創 、のサポ 設 や、 後遺 1 体 症 制 ワク を整備した取り ノチン 副反応に苦 組 Z

ŋ

ションが展開された。 や会場のオ さまざまな論点が取り上げられ、 教授がコーディネー わされた。 にとどまらない健康づくり施策 政策遂行のための多機関連携. ゥ 以 ١ Ĺ IJ パネリスト チに関する有効策」 ディエンスと共に熱い議論 からの ディスカッションでは、 ĺ となり、 報告を踏まえ、 0) Þ 健康寿命延伸 可 「行政事業の 能性」 ネリスト イ スカ が交 など 宮

会式・ 行政視

が 都 文字通り盛況のうちに幕を閉じた。 田 行 匑 宮市 記念東京都市研究所の小早川光郎理 わ パ 会の れ ネ た。 ル 0) 主催団体を代表して あ 酒井典久副市長から歓迎の デ ここでは、 イ 、さつ スカッション終了 が行っ 次期開催都 わ れ、 (公財) 2 後、 日 間 市 後藤・ あ 閉 0) である字 会議 会式 事 11 長 さ

会議終了後の午後には、 希望者を募って



トすることではないかと思う。

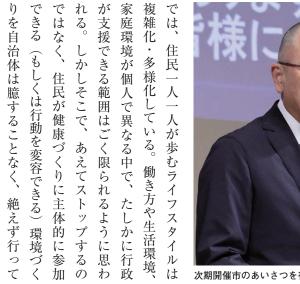
現在日本

全国都市問題会議を振り返って

そしてその参加を行政側が上手にコーディ そうであるが故に、 することの難しさをより一層感じた。 住民全員が満足し得る健康づくり政策を策定 団体の一員として、雑感を述べたい。 人が健康づくりに主体的に参加すること、 今回の会議に参加し、全ての議論を拝聴し、 一回の全国都市問題会議を振り返り、 必要なことは、 住民一人 しかし、 主催

端研究基盤施設視察コース」「通貨処理機の 察コース」の六つに分かれてそれぞれ現地視察 和学習視察コース」 トップメーカーと播州酒文化視察コース」「平 コース」「伝統文化学習事例視察コース」「最先 る姫路市近辺の行政施設視察を中心とするプ 政視察が行われた。 が行われた。 グラムが編成され、 「播磨灘の食と地場産業視 本年度は、 「文化財活用事例視察 開催都 市 であ

いくべきではないだろうか。 を自治体は臆することなく、 しかしそこで、 住民一人一人が歩むライフスタイ 住民が健康づくりに主体的に参 あえてストッ たしかに行政 絶えず行って プする ル 0) 加 は





次期開催市のあいさつを行う酒井・宇都宮市副市長

閉会式



閉会あいさつを行う(公財)後藤・安田記念 東京都市研究所の小早川・理事長